

令和5年度 大森小学校 研究・研修

1. 研究主題

主体的に学び、自分の考えを表現できる児童の育成
～算数科における確かな学力の定着をめざした授業づくり～

主題設定の理由

(1) 大森小の目指す児童の姿から

大森小学校の目指す児童の姿は、「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」である。そこで、児童自身が、学習の楽しさを知ることは、「分かった」「できるようになった」と実感できることから始まると考える。そのためには、基礎基本の学力の定着と、自分の考えをもち表現できる児童を育成するための授業改善をする必要がある。近年の本校児童は、自分の考えをもったり相手に伝えたりすることが課題である。算数的な見方・考え方を働かせながら順序立てて説明する力を育むことで、主体的に学び、自分の考えを表現できる児童が育成できるのではないかと考え、主題を設定した。

(2) 本校の児童の実態

本校は、印西市の北部に位置し、田園と昔からの商店がある地域である。児童は、明るく素直で、縦割り活動などの異学年での活動でも楽しく過ごしている。

本校は、単学級であるので、6年間人間関係は変わらない。そのため、人間関係が固定しがちだが、友だちの頑張りを見て自分も頑張ろうとする気持ちをもつ児童が多く、学習に対しても意欲的に取り組む児童が増加してきている。これまで、本校は、国語科の授業実践において「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指してきた。課題であった読解力も学力向上の取り組みの成果もあり向上してきている。

算数科の学習において、学年があがるにつれて、計算に自信のない児童が増えており、基礎基本の定着が課題である。そこで、算数科の学習を通して根拠をもって自分の考えを表現する力を育てていきたいと考えた。

2. 研究の目標

算数科において、確かな学力の定着を目指した授業づくりを通して、主体的に学び、自分の考えを表現できる児童を育てる指導の方法を研究する。

3. 研究仮説

仮説1 ～主体的な学びへ向かう手立てとして～

導入で学習課題を視覚的（視覚化）に分かりやすく示し、課題を明確にして（焦点化）授業を展開していけば、児童が主体的に学習に取り組むことができるだろう。

〈手立て①（視覚化）児童が課題を把握するための導入の工夫〉

（導入の工夫）

- ・児童の実態に即した素材を開発し、提示方法を工夫する。
（素材を図に表すなどイメージさせる。）
- ・ICTの活用を工夫する。
（授業の流れの共通理解）
- ・低・中・高学年毎に学習の流れを掲示し、児童が授業の流れを把握する。

〈手立て②（焦点化）何を指導するかを明確にする。〉

- ・児童が問題を解決するための見通しをもち、予想できるように導入を工夫する。
- ・目的にあった思考ツールを選択し、活用する。

仮説2 ～自分の考えを表現するための手立てとして～

既習事項をもとに、学習課題を解決することによって、自分の考えもったり友だちに分かりやすく伝えたりすることができるだろう。

〈手立て③（共有化）〉

（数学的な表現の確認）

- ・既習事項の確認（事前テストで既習事項の定着度を確認・導入時に確認）
（表現方法の工夫）
- ・ノートのまとめ方やICT器機の使い方を指導。（自力解決の時間を確保する。）
- ・既習事項などをもとに，自分の言葉で説明を書く時間を確保する。
- ・ペア，グループでの話し合いを工夫する。
低学年：ペア学習　中・高学年：ペア・グループ学習（発達段階に合わせて）
- ・ホワイトボード，ICT機器を活用する。
- ・発表や発言等を板書やホワイトボード・ICT器機に表現し，思考の可視化を図る。
- ・授業のまとめを児童が自分の言葉で書くための工夫。（何を学んだか。何が分かったか。）

3. 検証計画

観点	視点	方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・既習事項の理解 ・自力解決時の行動 ・練習問題でのチェック 	テスト テスト ノート・ICT ノート・ICT
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の工夫 ・話し合いへの参加 	ノート・ICT 授業観察
学びに向かう力・人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート（児童） ・学習への関心・意欲 ・UDの視点を生かした授業 	児童の意識調査 ノートへの感想

4. 研究の内容と方法

（1）理論研究

- 先行文献や実践校の資料を活用し，研究教科における効果的な指導方法の研究を行う。
- 算数科の学習について研究を行う。

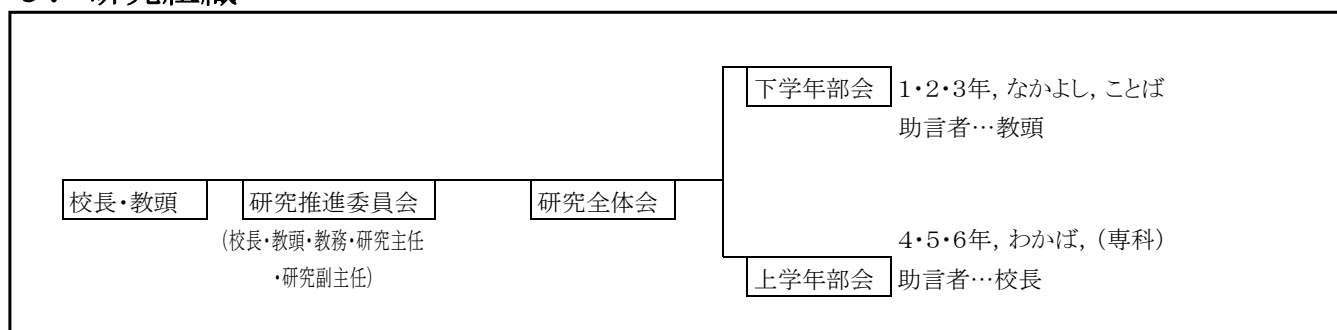
（2）実践研究

- 児童のつまずきを想定して，授業計画を立てる。（実態把握）
- 児童に学習習慣が身につくよう実践する。（授業と家庭学習との両輪）
- 授業改善を図るため，問題提示や話し合いの仕方などについて工夫する。
- ユニバーサルデザインの視点を生かして授業実践を行う。

5. 目指す児童の姿

- 学び合う楽しさを知り，できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで，主体的に算数科の学習に取り組もうとする児童（知識や技能，学びに向かう力・人間性）
- 数学的な表現を用いて，自分の考えをわかりやすく表現したり，話し合いを通してよりよい考えに高めることができる児童（思考力・判断力・表現力）

6. 研究組織



【授業のユニバーサルデザイン】

- 時間の構造化** →授業全体の見通しを見える形にすること。
(黒板やホワイトボードに大まかな時間の流れを提示する。)
- 場の構造化** →教室や道具等, 学習環境を徹底して整理整頓すること。
(学習効率を高めるだけでなく, 落ち着いて授業などに取り組めるようにする。)
- 刺激量の調整** →掲示物, 音等の刺激を減らすこと。
- ルールの明確化** →暗黙のルールを作らず, きまりを示すこと。
- 共有化** →①情報を整えて同じ土俵に立たせること。
(既習事項の確認や復習)
②学び合い, 考えを伝え合い, 教え合ったりすること。
(ペアやグループでの話し合い)
- 身体性の活用** →体や感覚を使った授業, 活動のこと。(動作化, 作業化)
- 視覚化** →板書や話し合いの可視化といった情報伝達の工夫をすること。
- スモールステップ化** →目標を細分化し, 徐々に最終目標に近づけること。
- 展開の構造化** →進め方, 説明方法, 何を体験させるか等, 授業の展開の構成をすること。
- 焦点化** →1時間の授業で何を教えるかしぼること。
内容をフォーカスし, 構成をシンプルにすること。
- スパイラル化** →既習事項を復習する場を設定すること。
- クラス内の理解促進** →誰もが活躍し, 助け合い, 良さを認め合う場面を設定すること。
(授業に参加するためには, 「分からない」と言える雰囲気や「間違えたり失敗したりしてもいいんだ」という雰囲気をつくる。)

7. 研修・研究計画

令和5年4月

○校内研修 ◎講師招聘研修 ※その他会議

月	日(曜)	研修・研究内容	研修方法	備考
4	4 (火)	※職員会議 (研究内容・研修計画伝達)	全体研修	
	6 (木)	○学力向上の取り組みについて※新年度準備 ○生徒指導「学校いじめ防止基本方針」 ○エビペン研修	全体研修	
	13 (木)	○モラールアップ研修会①・年間指導計画見直し (体育)	全体研修	
	20 (木)	※職員会議		
	27 (木)	○モラールアップ研修② ○大森を知ろう研修 (学区たんけん)	全体研修	
5	11 (木)	◎算数科指導研修 (理論研修)	全体研修	
	18 (木)	※職員会議		
	25 (木)	◎算数科指導研修 (指導案・評価について)	全体研修	
6	1 (木)	○モラールアップ研修③運動会準備 (運動会に向けての指導) 救急救命法研修が5月末か6月	全体研修	
	19 (月)	○第1回校内授業研究会指導案検討	部会研修	
	22 (木)	※職員会議		
	29 (木)	○指導案発送・授業準備	個人研修	※ことば授業研
7	6 (木)	◎第1回校内授業研究会 (年・ 年)	全体研修	
	13 (木)	※創立記念式典前日準備 (ことば授業研)	全体研修	
	21 (木)	○夏季校内研修 (人権・算数・特別支援・外国語など)	全体研修	
8		希望研修等 (市・総セ)		
9	7 (木)	○第2回校内授業研究会指導案検討	全体研修	
	14 (木)	※職員会議		
	21 (木)	○指導案発送準備・授業準備	個人研修	
	28 (木)	※成績処理・通知表確認		
10	5 (木)	○通知表準備・確認	個人研修	
	12 (木)	◎第2回校内授業研究会 (年 年)	部会研修	
	19 (木)	※職員会議		
	26 (木)	○教材研究・授業準備	個人研修	修学旅行
11	2 (木)	○第3回校内授業研究会指導案検討	部会研修	
	9 (木)	○教材研究・授業参観準備	個人研修	
	14 (火)	・市教研小学校授業研究会		
	16 (木)	※職員会議		
	30 (木)	◎第3回校内授業研究会 (特別支援)	全体研修	
12	7 (木)	○第4回校内授業研究会指導案検討	部会研修	
	14 (木)	※職員会議		
	21 (木)	○学年末事務処理	個人研修	
1	11 (木)	○指導案発送準備・授業準備	個人研修	
	18 (木)	※職員会議		
	25 (木)	◎第4回校内授業研究会 (年 年)	全体研修	
2	1 (木)	○研究のまとめ・年間指導計画見直し	部会研修	
	8 (木)	○研究のまとめ・年間指導計画見直し	部会研修	
	15 (木)	○授業参観準備	個人研修	
	22 (木)	※職員会議		
	29 (木)	※感謝の会前日準備		
3	7 (木)	・成績処理・保護者会準備		
	14 (木)	・卒業式前日準備		
	21 (木)	・通知表確認・学年末事務処理		

I C T研修は、その都度ミニ研修として日時を調整し実施する。